

「ニューヨーク・タイムズ東京支局記者」と記された私の名刺を手渡すと、たいていの人からは「帰国子女ですか?」「どこに留学していたんですか?」という反応が返ってきます。しかし私の経歴といえ、外国とは無縁の地方で生まれ育ち、1か月以上の英語圏での生活体験がありません。公立中学・高校時代は英語がなんとなく好きな学生で、実践的に英語を使っていたいなという漠然とした希望を抱いていました。

新聞の求人広告に応募したのがきっかけで、外国メディアの業界に足を踏み入れたのは20年前。当時の私は、

知識も経験も不足していて、何をするにも時間のかかる、できの悪い新人でした。採用直後、取材先の証券会社での通訳がうまくできず、取材相手の前で失神しそうになり、ひどく落ち込んだことがありました。当時の支局長からは、慰められるどころか、「たいへんなのはわかるけど、あ

なた、これできないと首よ!」と厳しく叱咤されたのでした。

それからは、新聞や雑誌を猛烈に読み込み、専門用語事典と和英辞書で確認し、日本語の取材テープを何度も聞き直しながら英語のメモ起こしをする日々が続きました。職場で上司とやりとりする夢を見て、英語の寝言にう



ニューヨーク・タイムズ本社の外観

## NYタイムズ 日本人記者に聞いた

今すぐできる! 結果が出る!

## 英語「発信力」トレーニング



著者 | 上乃 久子 うえの・ひさこ

岡山県出身。四国学院大学文学部英文学科卒業。  
同大学で3年間事務職を務めた後、都内の翻訳会社、  
ロサンゼルスタイムズ東京支局、国際協力機構（JICA）を経て、  
2012年からニューヨーク・タイムズ東京支局の記者として勤務。

写真：Kentaro Takahashi

なされるほど追い詰められたこともありました。

そして現在の職場でも、特派員が記事を執筆するために必要な資料を翻訳したり、取材に同行して通訳をしています。外国メディアで働くためには、日本人としての一般常識に加え、政治、安全保障、経済、テクノロジー、社会問題、文化、スポーツなど、幅広い分野にわたる情報収集が欠かせません。そして英語という「ツール」を使って情報を「変換」して、特派員、そして読者にニュースを伝える仕事の黒子として働き続けています。

4月から新年度に入り、今年こそ英語を上達させたいと

気持ちを新たにしている方も多いと思います。必要な英語のレベルや目的は千差万別ですが、どんな状況で何を英語で伝えたいのかをイメージしながら、日々の生活のなかの隙間時間に英語に触れる機会をつくり続けてください。目的がしっかりと設定できていれば、たとえ途中で挫折しても、いつでも再開することができます。

今回の特集では、私が実践してきた英語学習法をお伝えします。この記事が、皆さんが英語学習をさらに楽しみ、そして自分らしい表現を身に付けるためのヒントになることを祈っています。

# スピーキング編

英語に携わる仕事を通じて強く感じたのは、日常会話や仕事の場面においても、英語で話すこと自体は氷山の一角にすぎないということです。実は、水面下の巨大な氷河にあたるのは背景知識であり、それを母国語でしっかりと理解することこそが大切なだと痛感するようになりました。その水面下の氷河部分を提供する役割として、純ジャパである私が採用されたのだと気付いたのでした。

海外に出かけると、「あなたの国はどんなの?」「あなた自身はどう思うの?」と、自分の知識や意見を必ず求められます。答えに窮したとき、英語が話せないというよりも、「自分自身について、または自分の住んでいる町、国の文化、歴史について知らなさすぎた!」「もっと日本について勉強しておけばよかった!」と感じた経験がある人も多いかもしれません。

最近は、共通語を「英語」にする日本企業も増えています。また、観光客へのおもてなしやトラブル対応などで、日本にしながら英語でコミュニケーションをとる機会もどんどん増え

ていくでしょう。

そこで今回の練習では、すべて日本に関するニュースをピックアップしています。なじみのある話題・ニュースで練習することで、内容がしっかりと頭に入るだけでなく、自信を持ってアウトプットできるようにもなります。まずは、苦手意識を持っている英語学習者も多い、スピーキングの練習から始めていきましょう。



## 1. 音読でウォーミングアップ

練習のスタートには音読をおすすめします。スピーキングの苦手意識を乗り越え、英語を違和感なく話すには、英語の文章構造や流れに慣れる必要があるからです。スポーツをする前の準備運動のように、英語にも準備運動が不可欠なのです。

日によってスラスラと読めないこともあるかもしれませんが、自分にとっての定番の素材を自分のペースで丁寧に音読し、意識を英語で話すモードに切り替えてください。プロの通訳者でさえも、スランプに陥ったときには定番素材を音読するといいます。自分の好きな記事や小説を選び、定期的に素材を入れ替えてみるのもよいでしょう。

## 練習方法

1. 長くても約2〜3分で読み切れる分量の素材（音声とスクリプトがあるものとやりやすい）を選び、発音や抑揚の注意箇所があれば、原稿にメモを加えながら何度か聴き、内容を把握する。
2. まずは自分のペースで声に出してゆっくりと読んでみる。慣れてきたら、ただ読み上げるのではなく、自分がキャスターや主人公として語るイメージで音読する（その際に、参考音源の間や抑揚を参考に、内容や情景を頭に浮かべながらゆっくりと音読すると効果はより高まる）。
3. 自分の音読を録音し、間や抑揚、発音をチェックしながら、お手本の音源に近づけていく。

### CNN EEの記事でも音読してみよう!

- WONDERS AROUND THE WORLD (pp.10-11) 約2分
- 基礎トレーニング1、2 (pp.20-27) 各約30〜40秒
- ニュース・ダイジェスト1〜6 (pp.28-34) 各約30〜40秒
- ニュース・セレクション1〜3 (pp.46-63) 各トラック約30〜50秒